

令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和6年度の振り返りと令和8年度の取組検討）

施策No	232			
施策名	歴史・文化資源の保存と継承			
関係課	文化財課、文化推進課			

1. 進行管理

(1) 指標の実績・考察と目標年度（令和7年度）の目標値達成見込み

	指標	単位	実績基準値	実績値				見込値	目標値	最終年度（R7）の 目標値達成見込	R6年度の実績説明・考察 及びR7目標値達成見込判断の理由
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7		
a	適切に保存・継承されている指定等文化財件数（累計）	件	270	269	269	274	274	274	278	④現在の想定では目標達成が困難	R6年度時点で新たな指定等文化財候補が特に見当たらない状況であるため、目標達成は困難である。
b	歴史・文化資源関連のボランティア養成講座やボランティア活動参加人数（単年度）	人	120	228	347	703	732	768	1,200	④現在の想定では目標達成が困難	R6ボランティア参加人数は、各種事業の実施に当たって募集案内に努めたが微増に留まり、R7目標値との乖離が大きいため、目標達成は困難である。
c											
d											

(2) 構成する事務事業の昨年度（令和6年度）の取組結果 ※効果が上がった、下がったの判定は、事業効果を説明する指標のR5との比較となります。										
①施策関連区分A（実施計画事業）										
【効果が上がった事業】							事業費（単位：千円）			
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	効果説明
1	唐沢山城跡保存整備事業	各種整備の実施	件	1	1	1	21,381	10,924	16,820	史跡内での各種整備については石垣の保存整備のほか、視点場（南城）西方からの眺望の確保を目的とする樹木伐採等による植生整備を進めた。 また、講演会・講座等の参加者は、国指定史跡化10周年記念事業の講演会や史跡（非公開区域）の特別公開等の実施により参加者数は大幅に増えた。
		講演会・講座等の参加者	人	3	255	400				

【効果が下がった事業】							事業費（単位：千円）			
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	効果説明

②施策関連区分B（実施計画事業以外）										
【効果が上がった事業】							事業費（単位：千円）			
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	効果説明
3	葛生化石館企画展等開設事業	企画展開催期間中入館者数/市人口	%	11.9	10.5	14.7	133	119	398	企画展開催期間中入館者数は前年度より増えたが、内容に満足した入館者の割合・講演会参加者は減少した。
		期間中入館者数前年度対比	%	138.4	88.1	137.6				
4	葛生化石館講座等開設事業	受講者数/市人口	%	0.6	0.7	1.0	102	40	135	受講者数が前年度より増え、市民に対する割合も増えた。
		受講者数前年度比	%	245.7	128.4	129.2				
8	博物館協議会運営事業	意見・助言数	件	20	21	26	99	106	91	予定通り年2回会議を開催し、多くの意見をいただいた。
14	郷土資料保存三好館運営事業	開館日数／開館予定日数	%	100	100	100	191	191	191	予定通り開館できた。
		来館者数	人	53	30	72				
16	指定文化財保存修復支援事業	市内にある国・県・市指定等文化財数	件	269	274	274	200	85	400	文化財件数について、増減はなかった。 佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合は増加した。
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%	89.1	87.7	89.6				
19	葛生化石館運営事業	入館者数/市人口	%	14.4	14.4	19.8	3,513	3,652	4,512	入館者数・広報紙等掲載回数ともに前年度より増えた。
		広報紙・情報誌等掲載回数	回	44	39	49				
20	葛生伝承館運営事業	入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	6,488	7,295	8,113	入館者数が前年度より増え市民に対する割合も増えた。
21	葛生伝承館企画展等開設事業	企画展開催期間中入館者数/市人口	%	5.1	5.3	8.5	157	171	168	企画展開催期間中入館者数が増加した。
		期間中入館者数前年度対比	%	109.7	101.6	160.3				

【効果が下がった事業】							事業費（単位：千円）			
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	効果説明
17	田中正造旧宅一般公開支援事業	年間入場者数	人	861	1,548	1,140	978	941	838	コロナ禍も明け、入場者数も戻りつつある。
		ボランティア従事者数	人	14	14	13				
22	葛生伝承館講座等開設事業	講座を面白いと感じた参加者/アンケート回答者	%	90.7	93.1	76.9	0	8	19	受講者数・面白いと感じた参加者とも前年度より減少した。

(3) 基本方針の取組状況										
①特に実績をあげている取組（計画初年度(令和4年度)以降の取組状況）							②未着手等計画通りではない取組（及び今後の対応）			
天明鑄物生産用具国指定推進事業 ・令和5年度に、文化庁・栃木県の指導を受けながら文化審議会に必要な資料を文化庁に提出した。 ・令和5年度に、栃木県の協力を得て、栃木県立博物館に国指定候補の生産用具等を寄託した。 ・文化審議会の審議を経て、令和6年3月21日に「佐野の天明鑄物生産用具及び製品」（1,556点）が国の重要有形民俗文化財に指定された。 唐沢山城跡保存整備事業 ・令和5年度から石垣カルテの作成に着手した。 ・石垣の保護と眺望確保を目的とする樹木伐採等による植生整備を進めた。							・唐沢山城跡ガイダンス施設の設置については、整備・調査を進めながら施設の在り方を引き続き検討する。			

(4) 令和6年度行政経営方針の取組状況										
①令和6年度行政経営方針							②令和6年度行政経営方針の取組状況			
・史跡唐沢山城跡の二の丸の石垣整備について、保存整備調査指導委員会の指導・助言を仰ぎながら、石垣カルテを作成するとともに、地盤調査を行い、石垣整備（修理）基本計画を策定する。 ・史跡唐沢山城跡のガイダンス施設のあり方については、庁内で調整を図りながら検討を進める。 ・発掘調査や整備状況については、デジタル技術の活用を図るとともに、唐沢山のレストハウスや郷土博物館などで発信する。 ・郷土博物館等の入館者の増加につなげるため、企画展や講座の開設に際して市民ニーズの把握と魅力的テーマを設け、話題性のある事業を企画し周知する。また、郷土の歴史・文化資源に対する理解を促進してもらうため、学校利用による体験学習を継続する。 ・「（仮称）佐野市歴史文化基本構想」の策定に向けて検討を進める。 ・天明鑄物生産用具について、国重要有形民俗文化財指定が完了した後に、展示会を開催する。 ・天明鑄物生産用具の保管等については、必要となる保管場所（収蔵庫）の規模、機能等を勘案し、閉校した学校など公共施設改修等を検討する。 ・遺跡地図の作成については、旧田沼・旧葛生町域の詳細な分布調査を進める。							・保存整備調査指導委員会から、石垣整備（修理）基本計画策定よりも前に石垣カルテ作成を最優先で推進するよう指導・助言があったことを受け、二の丸の予備診断の実施や、面数を増やして本丸東側の石垣カルテを作成した。 ・他市のガイダンス施設の情報収集を行った。 ・国指定史跡化10周年記念事業において、城跡全体の3Dモデルを作成し、郷土博物館で上映した。 ・郷土博物館等で市制20周年記念企画展や関連の講演会を実施した。また、郷土の歴史・文化資源に対する理解を促進してもらうため、学校利用による体験学習を実施した。 ・基本構想策定の参考にするべく、情報収集先として先進自治体の選定を行った。 ・天明鑄物生産用具について、国重要有形民俗文化財指定を記念した展示会と講演会を実施した。 ・天明鑄物生産用具の保管場所（収蔵庫）の参考にするべく、重文の展示保管施設等の視察等に関する情報収集を行った。 ・遺跡地図の作成について、昨年度に引き続き旧葛生町域の分布調査を行った。			

2. 課題と次年度（令和8年度）の取組										
(1) 課題<環境変化や関係者の意見、要望等を踏まえて>			(2) 課題に対する今年度（令和7年度）内の取組状況、予定				(3) 次年度（令和8年度）の取組（案）			
①国指定史跡唐沢山城跡の適切な保存・整備 ②唐沢山城跡ガイダンス施設（ビクターセンター）の在り方の検討 ③唐沢山城跡の保存・整備に伴う発掘調査や整備状況の情報発信 ④郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館の入館者数のさらなる増加 ⑤葛生文化センターの老朽化に伴う葛生化石館等各施設の在り方の検討 ⑥文化遺産を総合的に保存活用していくための「(仮称)佐野市歴史文化基本構想」の策定 ⑦国指定天明鑄物生産用具の保管・展示・活用計画の検討 ⑧歴史・文化資源の保存・継承を通じた地域づくりの担い手の創出 ⑨文化財や歴史資料等の整理と収蔵施設の在り方の検討 ⑩指定等文化財をはじめとする歴史・文化資源の新たな活用に向けての検討			①南城等石垣の保存・整備に必要な石垣カルテを作成するとともに、石垣保護と眺望確保のための樹木伐採を行う。 ②ガイダンス施設の在り方について引き続き検討する。 ③唐沢山城跡の保存・整備に伴う発掘調査や整備状況について、郷土博物館のパネル展示やデジタル技術を活用したスライド画像等で情報を発信する。 ④郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館において、市民ニーズを踏まえた魅力のある企画展や講座等の開設を広くPRし、年間を通して計画的に行うとともに、学校利用による児童等を対象とした体験学習を継続実施する。 ⑤葛生文化センターの老朽化に伴う耐震性能の低下等により、今後の当該センターの整備に関する方向性や、現在センター内に所在する葛生化石館等各施設の在り方について、庁内で協議検討を行う。 ⑥文化遺産を総合的に保存活用していくための佐野市の基本構想策定の参考にするべく、他自治体の先進事例の調査を行い、必要な情報を収集する。 ⑦天明鑄物生産用具の保管等の参考にするべく、類似する有形民俗文化財を保管・展示している他自治体への視察を行うとともに、閉校予定の学校施設の活用について検討する。 ⑧歴史・文化資源に関する各種ボランティア養成講座等を開催し、保存・継承活動への参加者の増加を図る。 ⑨遺跡発掘調査に伴う多量の出土品等について、現物と遺物台帳を突合し、整合を図る。 ⑩まちづくり等への新たな活用が期待できる歴史・文化資源を選出する。				①石垣カルテ作成を最優先事項とする保存整備調査指導委員会からの指導・助言により、本丸北側等の石垣カルテの作成と眺望確保のための環境整備を進める。 ②唐沢山城跡の整備・調査を進めながら、ガイダンス施設の在り方について検討する。 ③郷土博物館や唐沢山レストハウス等の施設において、デジタル技術の活用を図りつつ、発掘調査や整備状況についての情報発信を行う。 ④郷土博物館等において、市民ニーズを踏まえた魅力のある企画展や講座を開催するとともに、学校利用による体験学習をさらに充実させることで、入館者の増加を図る。 ⑤庁内での検討結果に基づき、葛生化石館の施設の在り方に関する方向性を決定し、基本構想を策定する。 ⑥文化遺産を総合的に保存活用していくための佐野市の基本構想策定に向けて、先進事例など収集した情報をもとに検討を開始する。 ⑦天明鑄物生産用具の保管・展示・活用について、収集整理した情報をもとに課題の洗い出し等を行い、計画を立案する。 ⑧各種ボランティア養成講座の実施内容等について点検・見直しを行い、保存・継承活動への参加者のさらなる増加を図り、歴史・文化資源の活用による地域づくりに必要な人材を育成する。 ⑨文化財や歴史資料等の保管場所を確保するため、現在の保有量を把握し、今後の増加量も推定した上で必要な整理を行うとともに、整理後の全体量に対する収蔵庫の規模や機能等について検討する。 ⑩指定等文化財や未指定・未登録の歴史資料等の価値を改めて検証し、今後のまちづくり等への新たな活用について検討する。			